高山の文化を高めた人々 64

史跡の保存と整備に尽力した 松葉　惣四郎

田中　彰

松葉惣四郎は上枝村の助役、村会議員を努め、そのかたわら、赤保木地区の史跡保存を推進した功労者です。

惣四郎は、明治十四年十二月十八日、赤保木町の松葉家の長子として生まれました。長じては代々の家業である畑作と稲作を営み、昔から土地の産物として有名な赤保木の「ネブカ（ねぎ）」を作り、朝市にも出していました。一時期、家の裏に製紙工場を立てていたこともあったといいます。

赤保木史跡公園にて

二十二歳の頃、日露戦争に応召されて二〇三高地（中国大連市）で戦い、ふくらはぎの貫通銃創で負傷して前線から離れました。その後、惣四郎のいた部隊は全滅しています。

惣四郎の孫である清見町の松葉晴彦さん、赤保木町に居住する垣内壽美子さんは、惣四郎のことを温厚な人であったと語ります。大きい声を張り上げたことなどなく、いつも机に向かって本を読んだり物を書いていたといいます。

惣四郎は昭和二十一年十二月に赤保木史跡保存会を結成し、成田正利の墓や、赤保木の国分寺瓦窯跡の保存、近隣の遺跡調査に励みました。そんな中で昭和二十九年、赤保木集落の後背、熊野神社裏で客土採掘中に二基の変わった石組炉が発見されます。ひとつは舟の形をしていて、地元で大きな反響を呼びました。大騒ぎになり、郷土史家の角竹喜登や岡山準、考古学者の笠原烏丸、大学の研究者を呼んで調査を実施しました。そのときに撮影した写真が残っています。

残存状況も良く、舟の形をしていたことなどから、昭和三十一年に岐阜県の文化財に指定されました。指定名称は「赤保木石器時代火炉」で、現在の考古学の名称定義とは趣が違っていますが、当時における埋蔵文化財の保存処置の先鞭として評価がされました。

また惣四郎は赤保木史跡保存会として文化財の指定申請を積極的に行なっています。現在、赤保木町地内には赤保木瓦窯跡（国指定）、赤保木石器時代の火炉、赤保木古墳群（県指定）、成田正利墓、熊野神社本殿、熊野神社の大杉（市指定）があります。これらの建造物や史跡をめぐるコースが出来ており、学校、保育園などの学習の場として活用されています。

機関紙『飛騨春秋』には昭和三十四年から三十八年にかけて十一編投稿しています。その中で、第四年二号「御墓山とその山麓」では御墓山から見る早朝の雲海のすばらしい景観を紹介し、第四年十号「飛騨国分寺瓦の系統」では昭和二十二年に発掘調査された瓦窯出土の国分寺瓦の文様について記しています。第六年九号「江馬家の子孫」では神岡の麻生野にあった洞城主麻生野氏の子孫が、落ち延びた後に出世して大成院家を起こし、国分寺住職、新宮神社の神官になっていったことが紹介されています。

火炉にて、前列中央の後ろが松葉惣四郎

松葉惣四郎という人は、高山市における史跡保存のさきがけとなった人で、赤保木史跡保存会運営の「赤保木郷土館」も建設して一帯を赤保木史跡公園として整備をしました。今、惣四郎らの立ち上げた赤保木史跡公園は、高山市が管理する「風土記の丘史跡公園」として引き継がれているのです。

＜履歴＞　大正六年十一月十四日上枝村助役就任、同年十二月二十五日退職、また昭和十六年から二十年までは上枝村村会議員を四年努めた。昭和四十七年一月一日九十一歳で逝去。